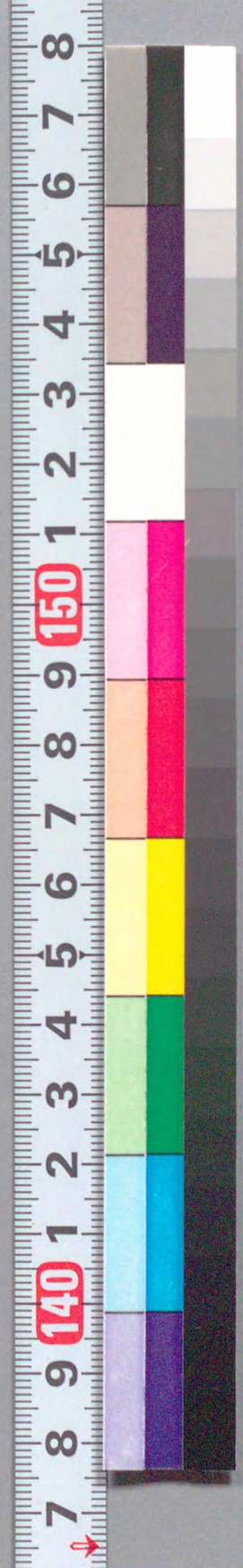
国立国会図書館　　菊廼井草紙 4編 208-682



ガラス使用

菊廼井草紙二編序

小説といふものは

書賈が筆

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

筆なべ採めれど玄荷ある事ゝや出たら
ねんと色を痛うみさまよひつゝそゞまる
うち書肆の沙汰いとせるきた何ごとも
おもはねばたゞおのが庵をも出ざりけり
庵こうちそゞりておよそ
けり
文政八乙酉初夏

瀬川路考述

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

らん事を欲ふ湯の薫ふ
あれ香化粧よ紅筆もとりて
よろづ事を出
癒つゝ果のゆう里にの事ぞ草紙ふみべきこゝろ
戯云ふ題せよめらいとまこそ
拙き文もあれ序文
はゞきせ～ちまこゝろの
庵をゆうそのうさめふ

ガラス使用

浪人軍蔵

娘於喜美

危橋連険棧
飛瀑瞰肝寒

甲斐猿橋

絹商人小七

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

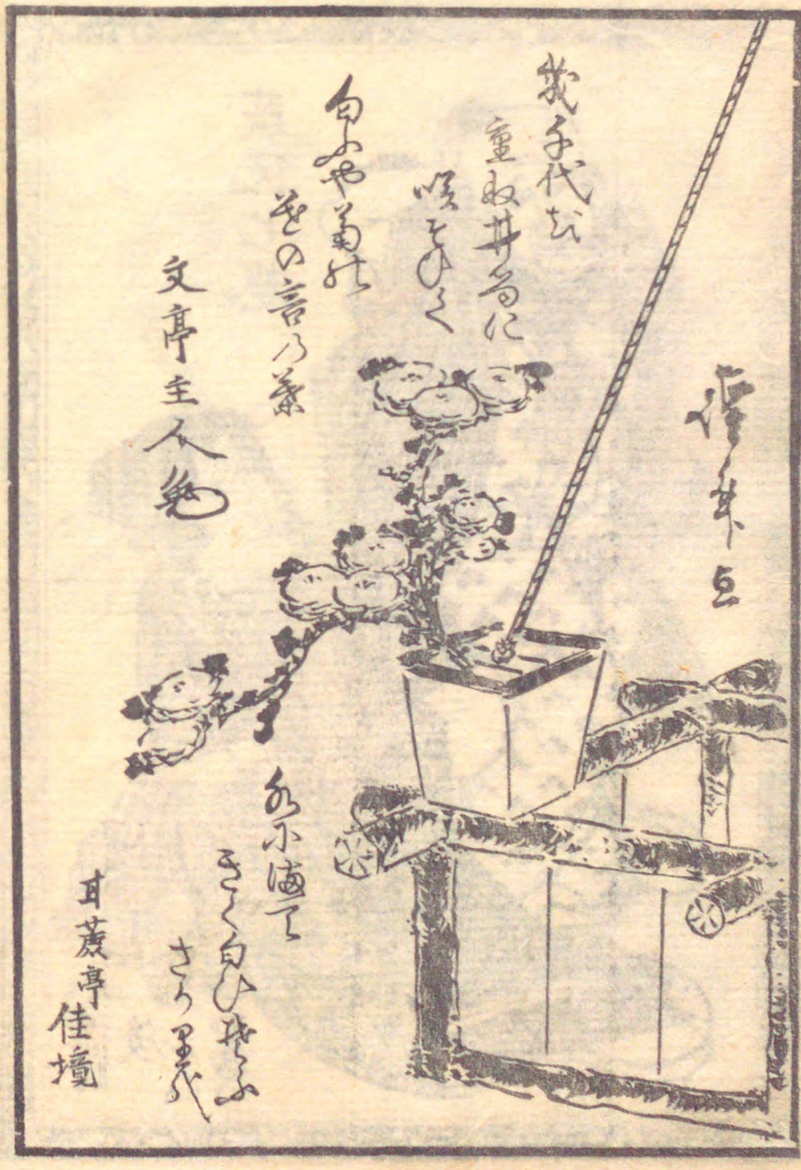
国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

菊廼井雙帋巻之四

江戸 烏永春水著

太る者日ごろ痩く。未ろもの衣服宜ろう。拌酒やの小七母の病死て愁ひ沈み居ろろ。程ろく忌も明る日。のいとうくろう空よ彼の野巫医七唐すゑら引て。小金井の櫻堺よ出ろみーが久ぐ家に



国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

のこゝより居さう支ふ外のづらーくそこゝ変
よと古き跡ふるんどと乃あぐ酒楼よ入今そ
酒ふろーふぐら七居小七よ向ひ七時よモン今から
もごく内へうでもござり寝の数
楼とんて仲の町で呑ふて引ケ時ふようもく
かくさへをべよふぐりまず最左ず内他で内
のお腹どの六通ってまものくこがお腹どのもいくそ
おまへの支と業ぐであうもちのだり居て本引り

演んでござろて六ふあと労症でもよろこお
業角もおっるからセ居ナどをべ抜びよでも
連ふそのそのでも乳保養よう支ふ今六ぐ
らでもよのと私へうねて内さまくやうつけでござり
まくらっちやうどよい時節ふ変ず窪へのって出発ど
ま世又気が捨川よりまずト巳がユこのうの
内へ引入ふてとするに先ふ。のふる小七六あるぎをと
そぐや風よ吹音ー共の物文情の姿繪のふも

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

山科屋の菊の井ハ。この
窓から窓と云ふ名よ忽ち
情程一顔をあらはす
ほどまでも思ひこんだ仇城やがありました
ぞ。その窓が窪よ山科屋と
云ふ若旦那ソノ山科屋とハ
ね上イヤあつたも〳〵。これ
ぞんだ。堅気の人のよきぬく。當時名が窪です。
山科屋と浦屋舞鶴やうぐらゐなもので二十ハさらあ
家サ小七「モシ女の山科屋よ菊の井とゐふ仇城があり

ますよ子七「イヤ全ク大重れぐらゐと云ふ
菊の井とのハイヤモウ。戯場役者でもあるめへ。水木
辰三文が舞台ぶりときそ。
上方ぶりよ通ひ詰めよふ
よ當御揚屋の全盛ぶらぶら歩き
花魁そこをどきやがれ。
笑イヤもとゐふ客ハ小七ハ
文ハどざらめが。ナント貴方
あゝ持で今夜その菊

の井よおのこふうまのうと。きい
女郎うとともそめこるら。のこの子曰で申こあらこで
あらみつぶと。強くいこことこと又ぞえの衣裡の艶
え。第あら。のでもこちの四ふ壷とふ福徳のこ身月まき
こそ性言のかとぬうちと。怨堪べあづりつ。主まうら
ま。とぼとぼる。おづうすもれ七居が業月のこごい
こち。小七ふ此衣山科屋こそいうろ。城ら居女が等の
まきみよ。くるごくまそ通き着男女の中年ん

きも行ひ一かりける小七すも織童高尓菊の井と。
いろ深きゆうろ。ふようつけ山科屋へこそ
通ひ之ぶ。奸婦お祝之管島六野亜医七居覚
ぶふ姿よろこび。ぎとも祝内こて金子と贈り
みごて。表ふこまふぬ宇て居こうけるかくて
或日小七ふ例のごく。菊の井ぶ
のうちの私言人こそふられ紬の海深きうきけぞ
ろりる之。小七ふうつと猶恩つき。縁あるべ千里も

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

遇ひ合ひとみから。うるわど縁とのものおるりので。
おまこまでがおぬしとかう深くうらみとか孔子さまで
も内存いあるまいくらこのお方。女ぎうひみし
いうでもうみまどに雅いおたくうや学文が好で女郎や
芸者とのものゝ虚ぎうりのものとのこと頓くうよ
おぐて居て恐ーのものと候へもよりつうえざ。そ
ごへうと風う散う姿絵双とりあげ見まバ仙城の
錦絵見うとひとく多内もぞうと為風よ。かんよ

男とみまとさめうとうのふ女とせめて下おせ。極と
かりーこと真うぐと思うさざ。
の次絵よおうまおうまうげ馬無くの恵慶
家でよ多まー。ぬす生きたいさうちに。
お母の病気。ふうもうもうちに。ァノセ居よさ
そうまて金井橋ら模りの戻やまうふこと廓の夜
楼。かれておひのふける。真ーあまバ鈴ふやうら。と居
つまて。ちでめて変へ生て見まバ恵おもまさ汚しまの

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

彼。独の膝も体ろくも知。志よ
通ふこと。とやゆ狂ハ犯
の妻。名つとの人ろ女が挑成主管の情でとらまる
女ケハまろ公でハあるけど。のりも今ゆも現おやゆ
やろやの条理よかくまま。結
ろことのでおおうと男のあるまで死ぬ恋の夏と
ろら一日ゆ時もあるずよの主ハ気よかりてろまて
ろさ恋が。ゆもさて面白い夏もろく。

夏衣のおろり。今もそ人の女郎突よ行のとお。ろの
べらくく古事古事。月夏の夏ゆそ夏人父ろも。今る
ろつそハそろうの後ろ夏。せあて一晩肉よ露ろ恋
つそ見ても。ゆござろかござろ好ろろつろこと程急ひく
ろり恨合とろろと発分のてバ。やるび恋ろびそろさ
の文名と。帳面へかきもろくし。犯父の頼も。妹の頼も。丁
稚長松がまつ恵ろつらさくて。
まろいくよ。のそそもまで野

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

なきまの助でもうろつくごう。家内うらおきまでが狂
う馬鹿さんごまでさせこのごとくおまえだろうてふござんせぬ。とてもこのあとこらひろうがきさまを照八のやうな親がぬけさくのでうろとして胴
ずのと薄ら日よ。笑さまろ真八常不所でどざんもが後家へどの
ようよ笑さまそーらまてもぬーあるうばひとひのさー
ませんがぬーハ先演もうこさえとよびなさんーそのひ
なさんーうぞ。その時ばとさーがどのよよ思うことそ。

逆す。夫婦さんうらまずとうが主一死分もうろう外にぎん
せぬ。度と思つてさうませよきさうのむけが小七つ
うぎそ一仏のそのようあんじる真八の主がはも
好このんで持こ女房というでんるけまどわんの駄の分を
主あるこあ。こと女房がありのがあるがなきへうと
らすば。そまでよのやうのきー「アイそまハそのでござんも
が。ようさーやまよのうな狂ばうらぬ真八ごぎんもぶぞす。
まづーうそうぬ面。今日のようの聖いようと思そ

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

いそぶ。終のひおくまでこのうん
だが今生でのひまんせうの
る。小「うんのそこの深さうつつ
おまへさまのいる柿の木の
うりも早くのさぶよの。エてうろ
つくこのぞみのうらこらくて
くまのこいのっ。ゆるさぬ
きく「そおますす馬鹿らの

だやこと猟がりでいる夏ら
知でおるまで。そのま不自
由もあるまいけまで。うその
毎も合方のようなるまこまや
ごぎうませぬそのよる夏や
るのがぶまいこみてのまの
小「そのようる夏でいるのがい
ふくのとんどのようる夏サ、

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

氣よかくるもやふうやく
きく「イエ〳〵くるまのまゝの
ヨのナリ「そこまで程なふいひとまたぐらハノテモいやよ
うつてよつて切まそこまでとゐのしやナきく「なのてテ
そのやうな度でハござんせぬか「イヤくそこであらおく
酒ろまちまちとさまのよ切まそのそでおろ〳〵とおれる
菊の井かうきつきよぐりきく「エヽテ下る居やちやんせ
つきこゝゐんめ男とうきこゝで
ゐずよ復ろて。切まるのしのえ
切まるゐ女。そのようる度ゐのようなエヨこゝやちまと切

まるうち直ぐ死でちまのまへます。ヨこゝ下がおまくのゐ人
みのこのこさ祝とゐやうなぶうの勤の中で路のつき
から月毎のきろう外れバ若もろと。まゐ人の種を宿
こうと。思ハ人ものヨまであ度。まへがきなこち新して。
お後世うとおりつこるまでどの。ゐのやらぢよもちぶろうして。
ヨまずよ居このでござんもとも下。さうゐむでで可愛ゐと
小十ゐ切て小「そんうらそのろぢやのきく「アイぢ甘
延ト引まず屋尾のうまの睦言。如何看官よろ

きく窓（まど）へまよく〳〵。作者（さくしや）もかくうまようとも並（なら）べ
知（し）らず

○

漫画（まんが）の発句（ほつく）に墨風（ぼくふう）の飄逸（ひようい）。
摘雑記（つまみざつき）よりくどく。知者（ちしや）も勇者（ゆうしや）も代道（だいどう）よ迷（まよ）ふ
ものもうきみつや。木将棋（きしやうぎ）車（くるま）ろ刃（は）の
小七（こしち）そ配所（はいしよ）の月（つき）の字美（じび）窓（まど）。その徒然（つれづれ）なぐさめん
と。お娘（むすめ）婿（むこ）よ徳利酒（とくりざけ）窓（まど）より送（おく）るのうち。深（ふか）さ〳〵を

老（おい）らまろう折（おり）〳〵と案（あん）ふ七（しち）ども硯（すゞり）とそろ押（おし）開（あけ）
七（しち）ども若旦那（わかだんな）どこでござりまする。お娘（むすめ）さまの
お守（もり）くと愛（あい）まものりまし〳〵。イヤ此間（このあひだ）
此方（こなた）よかうとそくぞしまうまで。駄具（だぐ）ぶ
ござらで。うく愛（あい）まのる直（ちよく）
筆（ひつ）のこ一旦那（いつたんな）ハ遠方（えんぽう）のお客（きやく）へ
遅（おそ）うよとの直書（ちよくしよ）お娘（むすめ）さまへ内證（ないしよう）でお移（うつ）ひ中（ちう）。
しぶりであるとお目（め）よう。あちらの仮（かり）もお客（きやく）

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

ヤこてゐやや。時よイヤ狐貉のお妻の。お腹さまと
ゐふ女中ハ通りのでござりまス。ゐやら何まで。こま
ごろ
ゐのつく。如戈のゐへお方。きろへりのでござりまスト。
貴まだ小七まゐとひそめ〳〵イヤモウお腹さまハ死ゐまさ
まびと
母人も及ばぬ。ゐづくし。ヨゲがこて。両居ての両表様
き
気が尽るでゐろ子といって毎日〳〵女中よつつけて
徳利へ酒を銅とて入まて。旅やの玉子焼ぢやのと。
ゐよゐな物ゐて。密よ。ゐ変へよこて呉ろとの六

モウ有ぐこのとす雄〳〵こまも。うく礼ハ句ハ済き夜。
七ツ屋とろこまもよの肉餐でゐ礼のそ下さ玉」上「ゐ玉ハや
よろて通ゐめぢとヤまた〳〵トかうちのぞんぶの中へイヤ
今日の六雑卵の奉焼ぢの。こゐハ寄ぬぢ。ゐ盃ゐれ
ぢ〳〵トうの娘ゐ玉とおやうく モシ
ゐろこゐが。後の個でよ。無勲サれ。小「ゐゐとゐろこと」上イヤ
ゐれとゐろこ呼でハ。どぎりません。尤ゐのろよまくきんの
こゐの男ろうろこといゐを玄ゐやと。ゐきつくんが

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

もとのところへ返してをいて。引
こんごそふぞうとてかうて
菊町へよびごてごふしとて
いつてう。てゐ小ても上玉と
いひもちらとても店存の
通り旦那衆嚢中のも
金ゐときそうるから。とも
今夜ハとこへ招合もりの

から。おまへのこのうちを売
ぢやでももるからおつて金。
菊の井きんも七きんの俤
とゆつてこのうつせひくと
のひきもちら。もうらいきまも
るゆへおうずと。早速ゐ上
こ呼がとる抱もとてあげ。
得をたがきまつが。もの

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

粧ひよそほひ。ゐうくとして病牛老でえぞでーとうの
呼のうつくしき。沉魚落雁閉月羞花「コレサそんな
小経文よりよまることけおぢやる。切抜文章といふさん
ぷ。「サテ来てはなしやすさ」「サ来てがらさを障子と
明て這入て何ぶもいふ事。モシエおまへうこゑで来ら
まして義理ぢやと。ホヨリと涙ぐんでうむのそ。ぬかす
いふ事無言のうち千萬無量の情や愛ごろもらん
語あり分ぶまこ小経のうち頭がたばまつこ。そんな

ごとくよ・ろ早くどうぞ新しくれへ「ヘイそよ
せくものでバござりやせん・せいてくだ
る・そこのおまへのおすまし土形と市・土六万物と言ふる
ユコレサそんな無粋者文分いふ
来てはなしとのさ・「モシエ七居さん
家宝とせく入らまてこと
もうくどうーま世のれ・そまでだ
ら言のーこまーまる舞さてそうまいが出る

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

きえうりませんうさ。りくぬーやーお医者さまぐろう。
どうしてぢきとまるとこよ藤屋と申すことでござり申すこと
いつごろそのおとけろの所へ手両前弐分弐朱と弐百下
でござり申すこと小「コレサ又しても気の長いぞよ
おまえがそこへ行てそれ切居ては
呼べぬ迚ず来てよろしくとそうきをそうよ分
もつてこれさお松どのへ深切が
ぢうねべとのふものごコレサ静よ噺なせ七ツ半ぐ。

モシ兎角仕様がおござりませぬ今でござり申そさうの
花魁が仕る内証で花実分
ござーくかけてまて。りくさて
て居申こぶ。その花実が役分
大きうのおが出そうろ。みがてまり
らがかのらへ女の様でござ
なのおコレサ医者ごとのつて
ろさうおまへさんとどうろ抱

のこまるような薬店をしてゐるがありがたいてござりません。八町堀の岩成さんが。

傳るもつて狂奇よ

憑き病の薬店八名ある薬師さう

妹よ。ござらんようまう草

とのつこ所で。野巫医のつこよ薬店と頓知ハめー

だろうざろめ。ハハハ時よ宝永軟ーせう小コロサ

静よさろー。おやくハどおも行公の剛気せずよ。狐つき

引きとが多くてるられ。風邪体とて菊の井が云

つこ変が承る甘い宝めー。ある。ここがこのの男よ

うつこのふるをやこう。葉ごろうが。そどもての雪。

ハやくそまごがやそくく七そごテ。菊さんうまて。

のこまも細きまれぬハカんとうよ。そのごき変

窄こゆくハ金らまこのでござります。ろどうせうよ。

そそのままで。そおてそのでありまん。一日や二百

の変うこのけまで。ぐくそおてのらまもやこ。

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

ござるまする。逃方よう見て呼がござる。
かつさよ小「ヤアわれはそのつら七「ヲヽとの事。ハヽ
のまとでござまする小「コウ
空でも降りでもそのまゝ矢張て
が。そこのわきまへの物ござる。
の物ハ参らうと。ヲヽとやがて
有ふ七「そまた降らうも
ござ。どこの法よきさら。

ござるまする。病人分参らうと
よる真六典薬頭へ及ばれ
つた。今日うら翌の昼時分まで。飯ハ喰ずよ居る
のござ小「そまた
こゞら手拍ご。是非
とかうてとこまでまゐろう。
こらそお出るさること。サア
祖父さまがゆろうこと。

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用

と支やらきのふからさわぐもこゝろ
ぜわしくおもひの頼とてしばせる所へ
私が居合せて。イヤ若旦那の古い病気が出ま
した。氣つけ薬でござりますが若イおくさま
開発てゐようてひよつこりまゐりましたと上の
頼よふていふてござりまするがそこでこと六成程
からうことまりまつてとのさまとのやさま
と申てやさまとのさまやさまそれ
から。う

静(しづ)まるまでうごかぬのと私(わたし)
そんなに今日(こんにち)淮南堂(わいなんどう)が狂言(きやうげん)の傘(かさ)がござります。
それへお出(いで)なさるまでござりませう。若(わか)てお好(すき)の
道(みち)でござる。ちつとお分(わか)りなされませ。
かう是非(ぜひ)なく市原屋(いちはらや)まで連(つ)れませうと連(つ)ますハ。
そこで例(いつも)のかどやから高(たか)ひ傘(かさ)の大門(おほもん)でおりの仲(なか)の
へおごりのおらんを仕舞(しまひ)一(ひと)まはりの芸者(げいしや)を揃(そろ)へ
一盃(いつぱい)のこり新造(しんぞう)が来(き)の早(はや)くものでござりまするといふ

かうコレ世話(せわ)しない今(いま)いくといひやうがうるさい
味線(しやみせん)を引(ひき)のチヤンホンくと二(ふた)そう戦(たゝか)ふもの奇(き)
妙(めう)くと思(おも)ひ表(おもて)へ廻(まは)るおぞ小(こ)コレサどこへ
見(み)のが狡父(やぢ)が当(あて)ごとのそれる大(おほ)きなお世話(せわ)とを
きるのじやアこゝのそんなことをおしやるがあの
つよ毒(あく)ふこゝろ。そでござりまするいぢの手抱(てだき)しようから。
あゝこの昼間(ひるま)からまぢやく敵(かたき)と手ずよいろ〳〵そ粗
言(こと)ばうまくあつてござりまして。かるうず転(ころ)んでも

208
12
682

そこが変ごりの。萬るで椎貝八ろうきのでも萬井戸のおらんでまろおろう一番ろ。つのりご。何が狙云ふ方がよこも。行公の主形の主でとんちき公やらまちゃあやまるう。おまくすも味くやられへでやアのうれへぜそま八美智サ。そんろうらかろうず若旦那と廓先名度。何公つごそぜ。チョン。と打ろ。妹のお仙が弾生もこ三絃の。我慢の為よ思ぜろず。二人谷と合せてもあ人八。名が窪へとのそ死行。

かくて上屋八妻ろ暁とあし飯さるぐの悪什公おくそのつぐの助うまくつのごし継事ようろ。七「モシ行公様。小「七屋おれ貴公が狙云ふ。一ツメ申うこやしくシャシくと指先で示

菊の井草紙巻之四了

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682
ガラス使用

国立国会図書館　菊廼井草紙 4編 208-682

ガラス使用